

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成23年度第2回生涯学習センター運営委員会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 生涯学習センター 内線4567(757-8481)		
開 催 日 時	平成23年12月14日(水)午前10時~		
開 催 場 所	生涯学習センター O A ルーム		
出 席 者	委 員	大塚啓子、常行貞臣、堀田啓子、石津容子、大音裕子、 山本朗、西谷久範、渡瀬順之  (欠席)松浦孝治、安藤真弓	
	その他	教育長、教育振興部長	
	事務局	宮脇克己、喜田由加里、藤原育子	
傍聴の可否	可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会、挨拶、自己紹介 報告・議題 (1)平成23年度生涯学習短期大学第18期生の応募結果について (2)平成24年度生涯学習短期大学事業計画について (3)平成23年度生涯学習短期大学第17期修了式について (4)その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり 会議資料は、市政情報コーナーに設置しています。		

## 審 議 経 過

### 1. 教育振興部長挨拶

### 2. 運営委員自己紹介

### 3. 報告・議題

#### (1) 平成 23 年度生涯学習短期大学第 18 期生の応募結果について(資料 1)

**事務局** レフネック第 18 期生募集については、往復はがきで募集したところ各学科 70 名の定員に対して農学科 113 名(応募倍率 1.6 倍)、文化遺産学科 183 名(応募倍率 2.6 倍)となり、合わせて 2.1 倍となりました。

4 月 16 日に大塚委員長、大音副委員長の立会いのもと公開抽選を行い、入学者 140 名を決定しました。1 年次の農学科は、レフネックに一度も入学出来なかった方に対する優先枠 20 人に対して 6 人の応募があり、全員入学となりました。しかし、文化遺産学科は、優先枠 20 人に対して 26 人の応募がありました。そこで運営委員会でも以前諮ったとおり優先枠対象者 26 人に対しては一度抽選を行い 20 人を決め、そこで当選されなかった 6 人の方は、一般抽選に回っていただきました。その結果、4 名が当選されました。

また、入学式を 5 月 14 日に実施、5 月 21 日から 2 年次応用工学科、文学・文化学科、1 年次の農学科、文化遺産学科の 4 学科ともに講義を始め、11 月 26 日に文学・文化学科と文化遺産学科、12 月 3 日に応用工学科と農学科は講義を終了しました。以上、平成 23 年度の生涯学習短期大学第 18 期生の応募果についてご報告します。

**委員長** ここ数年、委員長が入り抽選という形をとって入学者各 70 名の方を選んでいきます。抽選ですので私利私欲がなく公明正大です。ただ、抽選のため、男性と女性の申込者に対して、比率的に不公平がでてきている学科もありますが、抽選に関して、事務局のほうで不平不満、あるいは抽選はベストだという反応はありますか？

**事務局** 抽選方法に不平、苦情という声は聞いておりません。

**委員長** それでは、今年も同じ要領でいきましょう。

**運営委員** レフネックの年齢制限はありますか？

**事務局** レフネックでは年齢制限を設けておりません。2 年間学習意欲をお持ちの方を対象にしております。

委員長 年齢制限に関しましては幅広くということで制限はもうけておりませんが、将来にわたってはひとつの課題になってくるかなと思います。

(2) 平成24年度生涯学習短期大学事業計画について(資料2)  
本科(4学科)

事務局 学科の名称やテーマ・内容については、大筋で大学の方と調整させていただいたものです。資料に基づき説明させていただきます。

19期生1年次(仮称)建築学科

【ねらい】建築やまちのあり方は、少子高齢化、貧困、地球環境問題などの現代社会が抱える問題と深く関わっています。スクラップアンドビルドの時代は終わり、これからは「使われ・愛され続ける建築」を目指す時代が来ています。建築学科では、21世紀の変革する社会における建築のあり方を理解するために、まずは建築の歴史を丹念に紐解き建築学の全体像を把握してもらいたいと考えています。その上でさまざまな現代社会の問題点に対して建築の新しい技術や考え方がどのように寄与しているのかを講義していきます。

講師としては、近畿大学建築学部にお問い合わせの予定です。講師名の方は調整中ですので記載しておりません。

(仮称)水資源・環境学科

【ねらい】あらゆる生命の源であり、多様な文明を育んできた水。人類は水利用の方法を発展させることで、暮らしを豊かにしてきました。しかしながら、工業化、都市化、国際化など、人類の社会経済活動の進展は、水環境の悪化を地球的規模でもたらしました。水と環境の問題は、現在および将来の人類にとって、最大の課題といっても過言ではありません。水資源・環境の全体像を把握することは、現代社会のあらゆる課題に対して真剣に取り組むこととなります。生命を育む水について、日本と世界の水環境・水資源の問題について、基礎的知識とともに最新の現代的課題について講義します。

講師としては、立命館大学政策科学部にお問い合わせの予定です。

18期生の2年次 農学科 - 農学から現代社会の未来を探る -

【ねらい】食料と自然環境は、人類が生きていくうえで極めて重要です。しかし、これからも人体に害のない安全で、需要に見合った食料は確保されていくのでしょうか。また、国土や生物多様性の維持にもかかわる自然環境も保全されていくのでしょうか。本学科では、食と環境を中心とした現代社会が直面している課題を踏まえながら、今後のあり方を農学の視点から考えていきます。未来を担う子供達のために一緒に考えてみませんか。

講師は昨年同様に神戸大学大学院農学研究科から招聘です。

文化遺産学科 - 日本の文化遺産を考える -

昨年度より、常行委員のお力添えにより開催しております。

【ねらい】 戦後の高度経済成長による「拝金主義の風潮」「価値観の喪失」について、作家山崎豊子さんは「精神的飢餓状態にある」といい、その状態を「不毛地帯」と名づけました。とはいえ、日本には伝統文化・伝統技術などのすぐれた文化遺産がまだまだ残されています。文化遺産は過去の遺産だけでなく、「将来の文化資源」です。本学科では、多彩にわたる文化遺産の実相を学ぶとともに、文化遺産学の可能性をさぐるものです。講師は昨年に続きまして関西大学から講師を招聘です。

### オープン講座(3講座)

事務局 オープン講座は 150 人の定員のうち一般応募者 80 人、レフネック学生 70 人が受講するもので、3 回の短期間の講座で話題性のある学習内容で講師に依頼しております。

(仮称)幸福度講座 「幸せのモノサシ～日本の「幸福感」とは」

【ねらい】近年、各国で国民の「幸福度」を指標化する試みが盛んになっています。我が国でも内閣府の幸福度に関する研究会が立ち上がり、「幸福のあり方」を考え、指標化することへの検討がなされています。これまで国の豊かさを測るものとしては長らくGDP等の経済的指標が使われてきました。GDPと異なり、幸福感は心理的かつ主観的なものです。この講義では社会心理学による比較文化研究の立場から、心理学的幸福感研究の最前線を紹介し、日本の幸福感、あるいは幸せとは何かという問題に迫ります。講師としては、京都大学こころの未来研究センター内田准教授にお願いしたいと考えております。

【実施日】平成24年6月に3回 午後2時から90分

(仮称)医学講座「健康寿命をのばそう」

【ねらい】健康寿命(平均寿命 - 介護を受ける期間)をのばすことは、万人の願いであると同時に、これからの社会的要請でもあります。私たちは歴史上かつて経験のない超高齢化社会へと突入しようとしています。医学は進歩しましたが、マスメディアに氾濫する医学情報の中から、自分に必要な知識を取捨選択するのは簡単なことではありません。個々人が自分にあったライフスタイルを構築するために必要な医学情報や概念、また判断力について考えてみます。

講師は、大阪大学保健センター太田教授にお願いしたいと考えております。

【実施日】平成24年10月に3回 午前10時から90分

(仮称) 遺伝子講座「生命をつかさどる遺伝子DNA」

【ねらい】生命情報の担い手である遺伝子について、その構造や機能を理解するとともに、生物の進化を考えていきます。また、遺伝子の解析により明らかになってきた日本人のルーツや、遺伝子の構造が影響を及ぼす生物の寿命について説明します。それらのことにより、生命の謎を遺伝子という観点から探っていきます。

講師は大阪大学大学院理学研究科久富准教授にお願いしたいと考えております。

【実施日】平成 24 年 7 月の 3 回 午前 10 時から 90 分

### 課外講座、生きがい学習塾

事務局

課外講座について、

「パソコン教室」は、レフネックに入学する学生に対して、パソコン入門・初級を各 1 講座ずつ実施するものです。また、来年度もイラストや写真の編集・貼り付け等、実務的で要望の多い講義内容を「応用コース」として 2 コース、全 4 コースを計画しております。

なお、今年度に引き続き、外部講師ではなく、レフネックOBのパソコンクラブ・パソコン同好会の協力を得て開催したいと考えております。

今年度のパソコン教室は、レフネックのOBが講師やアシスタントとして細かい指導をしていただき受講者にも大変好評でした。

今月から現在のパソコンの更新を行いました。Windows7 で Word、Excel、PowerPoint とともに 2010 が入りますので、新年度の申し込みは新しい機種申込みとなりますので、多くなるものと考えております。

「陶芸入門教室」は、一昨年からは新しい先生にご指導をいただいております。指導に熱心な方で、作品の出来栄もとてもよいものが出来ております。

「郷土史教室」は、来年度は、川西の近隣市の伊丹や池田にも目を向けた郷土史の実施を考えており、今後、市社会教育室職員と協議してまいりたいと考えております。

「生きがい学習塾」は、レフネックの学生が教壇に立って自らの経験や学習内容等を講義し発表するもので、来年度も 10 回を予定しております。

この「生きがい学習塾」は講師を行う良い経験ができるもので、今年度も経験や知識、個性を発揮したすばらしい講義を実施していただいております。

### 第 19 期優先入学枠及び応募方法について

事務局

応募方法については、往復ハガキで 1 人 1 通、1 学科に限りの申し込みとし、

所定の申込用紙以外は無効とします。今までどおりの扱いを継続して実施しようとするものです。

優先枠は、今年度同様に今までに応募して一度も入学できなかった人を対象として各学科 20 人の優先枠を設ける予定であります。

以上、平成 24 年度生涯学習短期大学事業として考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 本科の方で何かご質問はありませんか？

運営委員 過去の学科と重複していないのか確認をしたい点と、15 歳の方が入っておられますが、その方の出席率といいますか、周りの雰囲気はいかがですか？

事務局 学科の重複については、今までしております学科で重複しているものはありません。日本史ですが、名前としては同じですが内容が重なったものはございません。本年度受講されている方の様子でございますが、出席率も高く、皆さん仲良くやっていただいて、学科ごとに集まられて学友の親交を深くつなげるように交流されているのでうまくいっていると思います。

委員長 委員の中には 15 歳という年齢のわだかまりがあるのかと思いますが、現在 15 歳の学生が在籍されていますので、あまりこの時期に年齢制限を審議するのはいかがでしょうか。少し現在の状況を見て、また次の機会にしっかりと考えていけたらと思っております。

運営委員 生涯学習という概念の中で、生涯学習は誰でもいつでもどこでもが基本だと思いますが、この 15 歳の方が学校教育の最中であるのも確かです。ただ、15 歳のかたがこの 70 人の中にどの程度占めているかという問題の時に議論することで、今おひとりの時に議論するほどのことでもないと思います。

委員長 いずれ、人数が増えてきた時にしっかりと検討していきたいと思っております。確かに広く門戸を開いているのが生涯学習センターですので、年齢制限を設けるというのは如何なものかと思っております。  
18 期生のカリキュラムにつきましては、常行委員のご尽力があったと聞いております。

運営委員 通常、大学の場合は基本 1 名の講師が年間通して講義をするというのが基本です。ただ、レフネックは 20 講義ですので、ある先生と相談しまして、一人の先生があるテーマを 4 回、5 回というよりは、色々な文化遺産という実相を見て頂きたいということです。ここの先生方は非常に幅広いです。文化遺産というのは昔でいえば、国宝級、重要文化財、市指定、県指定など色々ありますがそういうものばかりではなく、皆さんの足元にも文化遺産はあると

いうことを分かっていただきたいと思います。

委員長 講師陣がバラエティに富んでおりますし、色んな角度から文化遺産をみていただきたいと思います。将来にわたってはこの続編というのも考えられますね。これを踏まえて次の段階のカリキュラムを組んでいくことも可能ですね。オープン講座は一般の方に対しても毎回好評のようです。申込者も一般の方が多いいと思います。その時々ニーズにあった話題性の富んだものを取りあげていますね。

事務局 一般の方も多く、抽選をさせていただいております。

運営委員 生きがい学習塾は一般の方も聴講できるのでしょうか？

事務局 生きがい学習塾は、現役またはOBの方に講師になっていただき、現役の学生を対象に講義して頂いております。

委員長 課外講座3講座につきましては、別にレフネックの学生に限定されておられませんよね。

事務局 レフネックの課外講座になりますので、現役の学生に限定させていただいております。

委員長 課外講座の受講料はどうか？

事務局 資料代だけいただいております。講師料は発生しております。

委員長 生きがい学習塾の講師についての謝礼はありますか？

事務局 一回5,000円の講師料ということで、実質的には色々な資料代費用とかで現実的には不足しているようです。

委員長 講師はどのようにしてお決めになりますか？

事務局 学科の中で募集させて頂きますと、ある程度自主的に手が上がり、自薦、他薦は問いませんがしていただいております。

運営委員 皆さん結構、積極的に。すごいですね。

委員長 テーマはどのようにお決めになるのですか？

事務局 生きがい学習塾はその方の経験とか、学習した内容をしていただいております。

専門のお仕事をされていた方もいらっしゃるのです。そのような経験の中からもあります。今、一生懸命されていることを発表される方もいらっしゃいます。発表される方がテーマを自由設定でしていただいています。

運営委員 以前の経験をもとにされたお話が多いですね。

委員長 学生は沢山の方が参加されますか？

事務局 はい、平均して 30～40 名、多いときで 50 名です。

委員長 多いですね。それでは皆さんの生きがいになっているのですね。

運営委員 陶芸の作品の展示会などはないのですか？

事務局 ここで作品としてでてくるのは陶芸だけですので特にしておりません。

運営委員 課外講座は何名くらい受けていらっしゃいますか？

事務局 パソコンは各コース 20 名定員、陶芸は 15 名定員、郷土史は 50 名定員です。今年の陶芸は 10 名、郷土史は 44 名の方が受講です。各講座とも 1 年毎の募集です。陶芸の作品は一人あたりの粘土の量もありますが、作品は 7 点から 10 点ほど作成しております。

運営委員 オープン講座の定員は何人ですか？

事務局 一般の方が 80 名、レフネックの学生が 70 名の計 150 名です。定員を超えた場合は抽選とします。

運営委員 オープン講座の募集はどのようにされていますか？

事務局 実施月の前月の広報誌に掲載します。併せてレフネックのホームページでも掲載します。公民館等にはポスターを貼ります。3 月に設置する入学案内冊子にも掲載しております。

運営委員 どのくらいの方がアクセスされていますか？どの程度ホームページが活用できているのか知りたいです。

事務局 市へのアクセス数は、23 年 4 月から 52 万件。生涯学習センターへは 4,796 件で講座の方へのアクセスは 90 件です。

運営委員 ホームページと紙と並行して募集するのがベストでしょうね。



(3) 平成 23 年度生涯学習短期大学第 17 期修了式について(資料 3)

事務局 平成 23 年度第 17 期修了式を、平成 24 年 2 月 18 日(土)の午前 10 時から行なう予定です。運営委員の皆さまには、改めて 1 月中旬ごろにご案内をさせていただきます。お忙しいことと存じますがご臨席のほどよろしく願いいたします。大塚委員長には記念写真がございますので、午前 9 時 30 分までにセンターにお越しください。

(4) その他

平成 22 年度事業評価について

事務局 事業評価についてです。教育要覧の 56 ページ、57 ページをご覧ください。8 月 5 日に土居正典さん、釜本邦博さんの 2 名の評価委員に評価いただいております。

平成 22 年度生涯学習短期大学レフネック事業推進についての評価を受けておりました。評価の中で、募集期間が一月間であることについて質問がございました。それと、理系の講座は民間にはないのもっとやって欲しいというご意見も頂戴しております。

評価は、高度な学習内容で、申込者も多く他市に誇れる事業と思う。また、講座に加えてプラスアルファな学び方を考慮する時代にあると思うと分析していただき、評価を終わらせていただいております。

平成 22 年度監査について

事務局 8 月 30 日におこなわれました。ここでも学科の編成について問われておりました。アンケートの希望学科を参考に運営委員会に意見を聞いて編成をさせていただいていることなど説明させていただいております。アンケートの時期がその年度の講義途中で実施していることにご質問を頂いて、すべての講義が終わった段階でアンケートは実施すべきであるというご指摘を頂きました。今年度は最終講義のひとつ前の講義の時にアンケートを配布し最終講義の日に回収するように改善をさせていただきました。

平成 23 年度公開事業レビューについて

事務局 10 月 23 日アステホールにおいて 15 事業について実施されております。その前に勉強会として 9 月 15・19 日にも事前の勉強会がございました。そこでも色々な意見がでておりました。10 月 23 日のコーディネータは大阪府立大学

経済学部の水鳥教授、学識経験者の評価者は神戸新聞社阪神総局の岡本総局長、大阪音楽大学音楽博物館の塩津准教授、大手門学院大学経済学部の細井准教授、市民代表の評価者は植田さんと陸井さん、1名は欠席で、評価いただいたのは総勢6名です。

評価者の論点としては、3点あります。

- ・他の生涯学習との差別化、棲み分け
- ・市民のニーズを取り入れたカリキュラムの編成のあり方
- ・希望者の受け入れ体勢の充実を図る方策の検討

以上3点について評価者から発言がなされております。

総括として、コーディネータからまとめられた意見としまして、「この地域でレフネックは重要なものであり、拡充継続すべきである。幅広いニーズを取り入れ若い人も受講しやすいように考えてほしい。カリキュラム、立地、他の教育施設との連携も考え充実してほしい。」と述べられました。

ここの施設ですが、空調機の修繕を一部させて頂く予定でございます。来年1月30日(月)から2月4日(土)の間、閉館して修繕工事をさせていただきます。受付業務の方は通常どおりさせていただきます。図書室につきましては、予約されている本ですとか、返却は通常どおりおこないます。

ご利用頂いているグループにはこちらからお知らせしております。また、広報誌にも掲載します。

運営委員会の開催の仕方ですが、監査の席上や公開事業レビューなどの事前勉強会の中で、「市民ニーズをとりいれたカリキュラムの編成をどのようにしているか」というご質問が何点かございました。それを受けまして、ご説明としてはアンケートにおける希望学科、運営委員の意見、テレビや新聞で話題性のあるものをとりいれたカリキュラムの編成をしているとご説明をさせていただいておりますが、今後、運営委員の皆さまのご意見ももっと頂いてカリキュラムの編成をしていきたいと考えております。

来年4月上旬に運営委員会の第1回目を開催して、運営委員の皆さまの意見を頂いた上で、ベースとなるカリキュラムを組み、そして第2回目を6月頃には開催させて頂き、そこでもう1度ご審議頂く。それから交渉にあたっていきたいと思っております。ただ、そこで全て大学が受けてくれるかということもでございます。その断られた場合は事務局にお任せ頂いて、11月に第3回目の運営委員会を開かせていただいて決定をいただく。また次年度に向けての意見があればいただく。その他の運営などにつきましては、その都度ご審議いただければと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

ネットのことについてですが、市のホームページに予算が公開されております。予算編成方針が11月初めにネットで公開されております。11月30日に予算要求金額がでております。次の段階として、1月中旬頃に財政室から金額の提示がでてきます。最終的には2月に予算が公開されます。市のホー

ムページをのぞくとこのようなことがでております。  
参考にご報告させていただきます。

委員長 事業評価につきましては、専門の方からかなり高い評価をいただいたということですね。レフネックが川西においては重要な事業であると認めていただいたということですね。

運営委員会の開催方法につきまして変更したいという提案がございました。

4月上旬の第1回目で意見を出し合い、6月にカリキュラムのベース、11月に3回目ということですね。

当初は4、5回ありました。カリキュラムの内容に関しては運営委員が立ちいるということはございませんでした。事務局のほうで色々御苦労してやっていたということがあるのですが、何時のころからか、回数が減ってきて最近では、第1回目が11月と、遅すぎると感じておりましたので、この開催方法に変更とはありがたいことです。カリキュラムにどの程度参加させていただけるとはありますが、今のニーズにあったもの、時代性にあったものは意見として述べさせていただくことはできると思うのですが、ほとんどは事務局のご負担になるかとは思いますが。

運営委員 カリキュラム編成にあたり何かご指摘をうけられたのでしょうか？

事務局 直接に指摘されたわけではありません。自主的に編成する段階で、委員の皆さまの意見を反映していきたいと事務局が感じたわけです。出来上がったものを見て頂いている今の段階では、委員の皆さまのご意見が反映しにくい。意見を入れてつくっていくステップをつくっていきたくと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

運営委員 委員の意見もいいと思ひますが、受講生のアンケートを中心に希望の多いのを参考にされたいのではないのでしょうか？私たちはそうしています。

事務局 歴史関係、自然科学が多く上がっています。これが全ていいのかどうか。これは現役の学生に聞いています。市民全体の意見ではないので偏りがあります。アンケートはあくまでも参考と考へておひます。

委員長 20年近くになりますが、カリキュラムを毎回選定なさるのも大変だと思ひます。かなりカリキュラムの内容も出しつくしたかなとも思ひるので、また新しいものを開拓していくのかストックしてあるものを見直していくのか。取上げ方についても色々考へていってもいい時期かなと思ひますが。

運営委員 生涯学習センターにこられる方はレベルが高いです。ただ、ここに来られない方をどのようにしていくかという、市民レベルでアンケートをとられないとわからないです。それをやる以上は、統計論に基づいてやらないと思ひます。

性にかけるといいますか、専門家から言わせると意味がありませんよとなります。それを私は心配しています。たとえば予算もいるかもしれません。

委員長

運営委員会への比重が重く掛かってくる可能性がありますね。

以前、社会教育委員をしておりました時に、西宮の公民館の運営委員さんが事業内容を全部するんですと言われていました。市民の力を重きにおくというか、女性ばかりでしたが、西宮は市民に丸投げしていると思いました。本来の運営委員の仕事かなとその時は納得したんですね。ただ、大変なことで、専門職でないとできないと思うんですね。この20年間の過去の歴史というものをもう一度見直すというのが大切になってくると思うんですね。公民館とは違う高度なものをもってくるというのは大変なことだと思います。後、気になるのが、レフネックの平均年齢が非常に高いということですね。一度レフネックの若返りを視野に入れて考えていくことも大切ではないかと思えます。

運営委員

レフネックをみていると学ぶという意欲があれば、歳は関係なく学習になると思います。私どもも参加したいですが、若い世代の人は時間的に難しい。どうしても生涯学習となると現役を退職された方がさらに教養を高めるためにこられるので年齢が高くなるのは仕方ないと思います。若返りにもっていくためにはまったく違う方向をとらないと難しいと思います。

カリキュラムについても、20年間のものを見直すのも必要ですが、農学科という分野であれば、時代に応じて農学科の求められるものを組んでいけば、学科名は同じでも構わないと思います。時代に応じたカリキュラムを更に違う形でつくっていけばいいと思います。

アンケートの件ですが、生涯学習に来られた方は、学びの意欲が強いということで、生涯学習センターへ来られる方は市民の代表だと思うんですね。現役と市民の間に隔たりがあるとおっしゃったんですけど、主力のここに来られている方の意見に重きをおいてカリキュラムを組んだ方がいいと思います。

委員長

30代、40代の方に来ていただくと思ったら、夜間とか、日曜日とかになってきますよね。今の時間帯ではなかなか若い子が来てくれない。発想を変えていかなければなりませんね。

運営委員

高い年齢でもいいと思います。学ぶ意欲がある方がこられたらと思います。私はアンケートを重視するのがいいと思います。

委員長

OBと言われる半数以上を除外してしまっては成り立ちません。本当にありがたく思います。難しい問題で、お元気であれば年齢には関係ないということでしょうか。とりあえず、私は運営委員会の開催の変更につきまして非常にありがたく思います。

4 . 閉会